

2 学校における食教育全体計画作成の推進

(1) 全体計画作成の意義

食育推進基本計画（平成18年3月31日決定）において、「学校における食育の推進のためには子どもが食について計画的に学ぶことができるよう、各校において食教育に係わる全体計画が必要であり、これを積極的に促進する。特に、その際には、学校長のリーダーシップのもとに関係教職員が連携・協力しながら、栄養教諭が中心となって組織的な取組を進めることが必要である。」としています。

また、学校における食教育を支援するため、食教育推進嘱託員が学校を巡回し、各校間の橋渡し役として、食教育に関する情報の収集や提供、現場の意見収集、教育委員会への情報提供等を行います。

全体計画が必要な理由は次の通りです。

ア 学校における食教育は、給食の時間、特別活動、各教科等のさまざまな教育の内容に密接にかかわり、その推進のためにはさまざまな取組が求められます。このため、学校教育全体の中で計画的に体系的な食教育を行っていくことが必要です。

また、教科等の集団指導だけでなく、食に関する悩みをかかえる児童生徒の個別相談に応じることも重要です。

イ 学校職員全体で食教育に取り組む上で、学校全体の食教育の目標や具体的な取組について共通理解をもつ必要があります。

ウ 児童生徒が食について理解を深め、日常生活において実践していくためには、学校での指導と併せた家庭や地域社会での取組が必要です。全体計画は、保護者等の理解を得るために、学校の取組等を説明する際の基本的な資料になります。

(2) 全体計画作成の手順

食教育全体計画作成にあたっては、各学年における年間にわたる指導と各教科における指導内容を系統的に整理し、各職員の役割と相互の連携を明確にしておくことが大切です。

また、全体計画作成にあたっては、校内に「食教育推進委員会」等を設置し、十分に検討します。構成メンバーは、校長、副校長、主幹教諭、教務担当者や健康教育の視点から栄養教諭・学校栄養職員、養護教諭、家庭科担当教諭、体育担当教諭等が考えられます。

①学校全体の食教育目標を設定する。

目標設定にあたっては、

- ・ 校長や学校職員全体で食教育の共通理解をしておく。
- ・ 児童生徒の実態、食生活の課題を把握しておく。
- ・ 保護者の要望を把握しておく。

②学年ごとの食教育目標を設定する。

目標設定にあたっては、

- ・ 目標を構成している基本要素については、学年を通じて一貫性をもたせる。
- ・ 評価の際に実現状況が見極められるように、できるだけ具体的に設定する。

③給食時間および昼食の時間における食教育の内容等を年間通しての一覧表にする。

- ・ 給食時間および昼食の時間の指導目標を設定する。
- ・ 献立計画作成においては、各教科等での指導内容を考慮して学校給食の献立や食品を工夫する。
- ・ 各教科等での指導と学校給食および昼食の時間を結びつける。

④学年ごとに各教科等における食教育の内容等を抽出し一覧表にする。

- ・ 国語、社会、理科、生活、技術・家庭、保健体育、特別活動等において、各学校のカリキュラムから食教育の内容を抽出する。
- ・ 各校での教育活動に合わせて、実施時期や時間数を調整する。
- ・ 抽出した内容を一覧表にする際は、教科の単元と食教育の関連を示す「食教育の視点」を提示する。

⑤個別的な相談指導のあり方を示す。

- ・ 生活習慣病の予防や食物アレルギー対応の観点から、専門的知識を有する栄養教諭・学校栄養職員、養護教諭が中心となって児童生徒の個別の事情に応じた相談指導を行う。
- ・ 指導にあたっては、学級担任や保護者との連携を図る。

⑥給食献立での地場産物活用のあり方や農業体験等の取組を示す。

- ・ 地域理解や感謝の気持ちを抱かせるなど教育的効果が期待できる。
- ・ 地場産物を生きた教材として用いた指導を行う。

⑦保護者や地域との連携のあり方、幼保小中高の関連について示す。

(3) 全体計画作成例

●食教育の目標

食 教 育 の 目 標

学年	①食の重要性	②心身の健康	③食品を選択する能力	④感謝の心	⑤社会性	⑥食文化
低学年	◇食べ物に興味・関心をもつ。 ◇楽しく食事ができる。 ◇朝食の大切さが分かる。	◇好き嫌いせずに食べようとする。 ◇正しい手洗いができる。 ◇よくかんで食べることの大切さが分かる。 ◇よい姿勢で落ち着いて食べることができる。	◇いろいろな食べ物の名前が分かる。	◇食事を作ってくれた人の努力を知る。 ◇心を込めて、いただきますとごちそうさまの挨拶ができる。	◇友達と仲良く食べる。 ◇みんなと協力して給食の準備、後片付けができる。 ◇正しいはしの使い方ができる。 ◇食器の正しい並べ方が分かり、正しく持って食べることができる。	◇自分が住んでいる身近な土地でとれた食べ物を知る。 ◇季節や行事にちなんだ料理があることを知る。
小 学 校 中 学 年	◇3食規則正しく食事をとることの大切さが分かる。 ◇楽しく食事することが心身の健康に大切なことが分かる。	◇よくかんで食べることができる。 ◇健康に過ごすことを意識して、いろいろな食べ物を好き嫌いせずに食べようとする。	◇いろいろな料理の名前が分かる。 ◇衛生的に給食の準備や食事、後片付けができる。	◇食事は多くの人々の努力があって作られていることを知り、感謝の気持ちをもって食べることができる。 ◇自然の恵みに感謝して食べることができる。	◇楽しい会話をしながら食べることができる。 ◇楽しく給食を食べるために、みんなで協力して工夫ができる。	◇季節や行事にちなんだ料理があることが分かる。 ◇地域の産物に興味を持ち、日常の食事と関連づけて考えることができる。
高 学 年	◇日常の食事に興味・関心をもつことができる。 ◇朝食をとることの大切さを理解し、習慣化している。 ◇楽しく食事することが、人と人とのつながりを深め、豊かな食生活につながる事が分かる。	◇栄養のバランスのとれた食事の大切さが分かる。 ◇食品の三つの働きが分かり、好き嫌いせずに食べることができる。 ◇食事が体に及ぼす影響や食品をバランスよく組み合わせることを理解し、1食分の食事を考えられる。	◇食品の安全・衛生について考えることができる。 ◇食品の衛生に気を付けて、簡単な調理をすることができる。 ◇衛生的に食事の準備や後片付けができる。	◇食事にかかわる多くの人々や自然の恵みに感謝し、残さず食べることができる。	◇楽しい食事を通して、相手を思いやる気持ちをもつことができる。 ◇協力して食事の準備、後片付けを進んでできる。	◇特産物を理解し、日常の食事と関連づけて考えることができる。 ◇食文化や食品の生産・流通・消費について理解を深める。 ◇外国の食文化を通して、外国とのつながりを考えることができる。
中 学 校 1 ・ 2 ・ 3 年 生	◇毎日規則正しく食事をとることができる。 ◇食環境と自分の食生活との関わりについて理解することができる。 ◇生活の中で、食事が果たす役割や健康と食事との関わりを理解する。	◇自分の生活や将来の課題をみつけ、望ましい食事の生活習慣を理解し、自らの健康を保持増進しようとする。 ◇身体の発達に伴う必要な栄養や食品に含まれる栄養素の種類と働きを知り、中学生の時期の栄養について理解する。 ◇1日分の献立を踏まえ、簡単な日常食の調理ができる。	◇食品の安全・衛生について判断し、適切な取り扱いができる。 ◇食品に含まれている栄養素や働きが分かり、品質の良否を見分け、適切な選択ができる。	◇生産者や自然の恵みに感謝し、食品を無駄なく使って調理することができる。 ◇食について考え、感謝の気持ちをもって食べることができる。	◇自分を取り巻く人々との楽しい食事を通して望ましい人間関係をよりよく構築しようとする。 ◇環境や資源に配慮した食生活をしようとする。	◇食文化や歴史と自分の食生活との関連を考察することができる。 ◇食品の生産、流通、消費について正しく理解することができる。
高 等 学 校 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 年 生 ・ 各 入 学 年 度 生	◇食事の意義について正しく理解できる。 ◇食生活の多様性と食環境の変化について理解し、自分の食習慣を見直すことができる。 ◇成長期における食事が生涯にわたる健康を築く基礎となることを理解し、積極的に食生活習慣の改善をすることができる。	◇毎日の栄養摂取状況が将来の健康保持増進につながることを理解し、食事内容の改善を図ることができる。 ◇家族の課題や望ましい食事の仕方や生活習慣について理解し、家族の健康を保持増進することができる。 ◇食品に含まれる栄養素の種類と働きを知り、家族の1人ひとりに合わせた1日分の献立を作り、日常食の調理ができる。	◇食品の安全・衛生について科学的な知識を学び、適切な判断と取り扱いができる。 ◇食品に含まれている栄養素や働き、食品添加物や食品の調理上の性質を理解し、品質の良否を見分け、適切な選択ができる。 ◇食品の栽培・生産・加工・流通のサイクルを理解し、全ての過程において安全で衛生的な食品を選択し、衛生的な取り扱いができる。	◇食について考え、食物を大切に、生産にかかわる人々の感謝の気持ちをもって食べることができる。 ◇世界の地域性を踏まえて現代社会の食の課題に気づくとともに、自分の食生活に感謝することができる。 ◇家族のために食事を作ることで、食事を作ってくれた人へ感謝することができる。	◇自分を取り巻く人々との食事を通して、マナーを守って楽しくコミュニケーションをとり望ましい人間関係を構築する。 ◇環境や資源に配慮した食生活に組み込むことができる。	◇世界の食文化やマナー、歴史を学び、食品の生産・流通・消費について正しく理解し、日常生活に生かすことができる。 ◇季節や地域の特産物と年間の行事食とを関連づけて、正しく理解することができる。

※個別支援級、特別支援については子どもの実態に応じ、上記目標より設定する。

●食教育の全体計画例（小学校）

□ 内は実践例があります。

子どもの実態 保護者 地域の実態	学校教育目標	文部科学省 「学習指導要領」 教育委員会運営方針
	豊かな心で地域とともに伸びやかに生きる〇〇の子どもを育成します ○すすんで学び高めあう子どもを育てます ○感情豊かで思いやりのある子どもを育てます ○健やかでたくましい子どもを育てます	
	食教育の目標	
	① 食の重要性 ② 心身の健康 ③ 食品を選択する能力 ④ 感謝の心 ⑤ 社会性 ⑥ 食文化	

各学年の発達段階に応じた食教育の目標

幼稚園 保育園	低学年	中学年	高学年	中学校
		別紙参照		

特別活動	食に関する指導	I期<やってみよう>	II期<かかわろう>	III期<たかめあおう>	IV期<みとめあおう>	
		給食指導	(低)	(低)	(低)	(低)
		献立作成の配慮	旬の食品、市内産こまつな・キャベツの使用	旬の食品の使用	旬の食品、市内産こまつな・キャベツ・だいこんの使用	旬の食品の使用
		学級活動	(1)	(2)	(1)	(2)
		学校行事	健康診断 遠足	修学旅行、宿泊学習 夏休み	学習発表会 冬休み	給食週間
		児童会活動	ふれあい交流ランチ (なかよくなるう)		ふれあい交流ランチ (楽しく食べよう)	給食集会
		クラブ	料理クラブ			

教科との関連	1年	2年	3年	4年	5年	6年	個別支援学級 領域・教科を合わせた指導 ・食事の約束を決めよう (日常生活指導; 給食指導; 自立活動; ごみの始末・箸の使い方等) ・みんなでそだててくつたべよう
	国語		・すかたをかえる大豆	・「あじ」こと力			
	社会		・町たんけん	・ごみのゆくえ	・食料生産を支える人々	・大昔の暮らしをのぞこう	
	理科		・植物を育てよう				
	生活	・すいすいさわやかきもちいね	・やさいをそだてよう				
	家庭			・チャレンジ! 元気な体づくり	・育ちゆく体とわたし	・1食分の食事について考えよう	
総合的な学習の時間			(環境) ・ごみ減量大作戦	(自然資源) ・みんなで育てるかがやく努力米		教科の指導 ・理科、生活科(野菜の観察、さつまいもの観察・収穫など)	

家庭・地域との連携	給食だより、学年・学級だより、保健だより、給食試食会、家庭教育学級、料理教室開催、栄養個別指導、食に関する講演会の実施、「健康フェスタ」等の行事への参画
個別相談指導の方針及び取り組み方	・定期健康診断、保健調査票の結果、日常の食生活の様子等から必要に応じて個別相談指導を行う。 ・日常児童の様子を十分把握し、配慮が必要な児童については医療機関、保護者との連携を図る。 ・保護者の申し出により、学校長、学級担任、栄養職員、養護教諭、調理員で食物アレルギー除去食等の対応を検討する。

●食教育の全体計画(小学校)

内は実践例があります

子どもの実態	豊かな心で地域とともに	1枚にまとめられるようにする。	省
保護者	各 各学校の特徴を具体的に表記する。		教育委員会運営方針
地域の実態		食教育の目標	
	① 食の重要性 ④ 感謝の心	② 心身の健康 ⑤ 社会性	③ 食品を選択する能力 ⑥ 食文化

各教科等での指導と学校給食を関連させる。各学校独自の目標も記入する。

発達段階に応じた食教育の目標

幼稚園 保育園	中学年 別紙参照	高学年	中学校
------------	-------------	-----	-----

特別活動	給食時間	Ⅱ期<かかわろう>		Ⅲ期<たかめあおう>		Ⅳ期<みとめあおう>	
		指導	内容	指導	内容	指導	内容
食に関する指導	給食指導	・主食の食べ方 ・魚の食べ方 ・食生活Ⅱ(魚の食べ方)	・主食の食べ方 ・魚の食べ方 ・食生活Ⅱ(魚の食べ方)	・食べ物の好き嫌い ・秋の食べ物 ・冬の食べ物	・食べ物の好き嫌い ・秋の食べ物 ・冬の食べ物	・食に感謝する心 ・寒さに負けない食事 ・お祝いの食事 ・バランスのとれた食事	・食に感謝する心 ・寒さに負けない食事 ・お祝いの食事 ・バランスのとれた食事
献立作成の配慮	旬の食品、市内産野菜の使用	・きまりを覚えよう ・良い姿勢で食べよう ・よくかんで食べよう	・安全で衛生的な運搬・配膳をしよう ・食事のマナーに気をつけよう	(低) ・食べ物の名前を知ろう ・好き嫌いを克服しよう ・力を合わせて片づけよう	(低) ・食べ物の名前を知ろう ・好き嫌いを克服しよう ・力を合わせて片づけよう	(低) ・感謝して食べよう ・たのしい食卓を作ろう ・楽しい会食にしよう	(低) ・感謝して食べよう ・たのしい食卓を作ろう ・楽しい会食にしよう
学年活動	端午の節句、八十八夜、開窓立、歯の衛生週間、食育月間	・七夕、敬老の日	・七夕、敬老の日	十五夜、目の愛護デー、地産地消月間、冬至、大晦日	十五夜、目の愛護デー、地産地消月間、冬至、大晦日	七草、鏡開き、給食週間、節分、ひな祭、卒業祝	七草、鏡開き、給食週間、節分、ひな祭、卒業祝
学校行事	・健康診断 ・遠足 ・運動会	・修学旅行、宿泊学習 ・夏休み ・遠足	・修学旅行、宿泊学習 ・夏休み ・遠足	・学習発表会 ・冬休み	・学習発表会 ・冬休み	・給食週間	・給食週間
児童会活動	・ふれあい交流ランチ(なかよくなるう)	・ふれあい交流ランチ(なかよくなるう)	・ふれあい交流ランチ(なかよくなるう)	・ふれあい交流ランチ(楽しく食べよう)	・ふれあい交流ランチ(楽しく食べよう)	・給食集会	・給食集会
クラブ	・料理クラブ						

学年毎に具体的に設定しても、2学年くりりて設定してもよい。

日々の給食を生きた教材としてとらえ、指導計画を立てる。

食とかかわりのある単元を既存のカリキュラムからピックアップする。食教育の目標は学年別計画に入れる。

各学校の実態に合わせて内容を記入する。

生活習慣病予防やアレルギー対応等の点から記入する。各学校の実態に合わせて内容を記入する。

教科との関連	1年	2年	6年	個別支援学級
	生活	・すいすいさわやかきもちいいね	・やさいをそだてよう	・植物を育てよう
家庭			・見つけよう!家庭生活 ・料理ってたのしいね! ・おいしいね!	・一食分の食事について考えよう
総合的な時間			・チャレンジ!	・みんなですだててつくってたべよう

家庭・地域との連携 給食だより、学年・学級だより、健康フェスタ等の行事への参画

個別相談指導の方針及び取り組み方 定期健康診断、保健調査票の結果、日常の食生活の様子等から必要に応じて個別相談指導を行う。日常児童の様子を十分把握し、配慮が必要な児童については医療機関、保護者との連携を図る。保護者の申し出により、学校長、学級担任、栄養職員、養護職、調理員で食物アレルギー除去食等の対応を検討する。

●食教育の年間指導計画(小学校第3学年) 例

		4月	5月	6月 食育月間	7月	8月	9月	10月	11月 地産地消月間	12月	1月	2月	3月	
特 別 活 動	食に関する指導	給食の食べ方	春の食べ物	かむことの大切さ 日本型食生活	夏の食べ物		主食の食べ方	秋の食べ物	食べ物の好き嫌い はま菜ちゃん	冬の食べ物	食に感謝する心	寒さに負けない食事	バランスのとれた食事	
	給食指導	きまりを覚えよう	良い姿勢で食べよう	よくかんで食べよう	安全で衛生的な運搬・配膳をしよう		食事のマナーに気をつけよう	食べ物の働きについて知ろう	給食の量について知ろう	協力して後片づけをしよう	感謝して食べよう	環境を整えよう	楽しい会食	
	献立作成の配慮	旬の食品	鱈・鱈・みつば・ほうれんそう・あさり・甘夏みかん・晩柑	鱈・あさり・鯉・さやえんどう・メロン・たけのこ・キャベツ	鯛・鯖・めかじき・なす・さやいんげん・アスパラガス・メロン	めかじき・鯛・鱈・枝豆・とうもろこし・とうがん・トマト・ズッキーニ・すいか		秋刀魚・オクラ・なす・きゅうり・トマト・ピーマン・梨・ぶどう	ししゃも・鮭・きのこ・さといも・ブロッコリー・ねぎ・ごぼう・栗	鮭・鱈・さつまいも・水菜・きのこ・白菜・だいこん・柿	さといも・かぶ・にんじん・だいこん・ごぼう・みかん・りんご	鱈・わかさぎ・れんこん・白菜・春菊・だいこん・ゆず・みかん・りんご	ブロッコリー・かぶ・こまつな・キウイ・伊予柑	鱈・菜花・ブロッコリー・ねぎ・かぶ・こまつな・ほうれんそう・はっさく
	地場産物の配慮		こまつな キャベツ(はま菜ちゃん)					こまつな キャベツ	だいこん(はま菜ちゃん)					
	食文化の伝承		端午の節句 八十八夜	開港献立 歯の衛生週間	七夕		敬老の日(日本型食生活)	十五夜 目の愛護デー		冬至 大晦日	七草 鏡開き 給食週間	節分	卒業祝 雑祭	
	学級活動 学校行事		よくかんで食べよう<①>											
児童会活動		発達測定	運動会 家庭訪問		個人面談		発達測定	遠足		教育相談	発達測定 給食週間	なわとび月間		
		交流ランチをしよう					交流ランチをしよう			給食集会を楽しもう				

14

教科との 関連	国語									すがたをかえる大豆<⑥>			
	社会						町たんけん<⑤> ・農家を見学しよう ・野菜育ての工夫を探ろう ・農家の人の願いを知ろう						
	理科		植物をそだてよう<②・④> ・たねをまこう ・花がさいて実ができた			・どれだけ育ったかな ・実がじゅくしたよ							
	体育 (保健運動)		チャレンジ! 元気な体づくり <①・②>				チャレンジ! 元気な体づくり <①・②>			チャレンジ! 元気な体づくり <①・②>			
総合的な学習		夏野菜を育てよう<④> サツマイモを育てよう<④>		夏野菜の収穫を祝おう <④>			冬野菜を育てよう <④>		サツマイモの収穫を祝おう <④>	大豆を使った料理を調べよう <④・⑥>	収穫した野菜を給食に使ってもらおう<④>		

* 数字は、食教育の目標を示す。①食事の重要性 ②心身の健康 ③食品を選択する能力 ④感謝の心 ⑤社会性 ⑥食文化

家庭・地域との連携						農園の見学							
個別相談指導	アレルギー対応調整会議				栄養相談					栄養相談			

●食教育の年間指導計画(小学校第3学年) 例

		4月	5月	6月 食育月間	7月	8月	9月	10月	11月 地産地消月間	12月	1月	2月	3月	
特別 活動	食に関する 指導	給食の食べ方	春の食べ物	かむことの大切さ 日本型食生活	夏の食べ物		主食の食べ方	秋の食べ物	食べ物好き嫌いの はま菜ちゃん	冬の食べ物	食に感謝する心	寒さに負けない 食事	バランスのとれた 食事	
	給食 指導	きまりを覚えよう	良い姿勢で 食べよう	よくかんで 食べよう	安全で衛生的な 運搬・調理を しよう		食事のマナーに 気をつけよう	食べ物の働きに ついて知ろう	給食の量に ついて知ろう	協力して後片づ けをしよう	感謝して 食べよう	環境を 整えよう	楽しい会食	
	献立作成の 配慮	旬の 食品	鱈・鱈・みつば・ ほうれんそう・ あさり・ 甘夏みかん	鱈・あさり・鯉 さやえんどう・	鯛・鱈・めかじき なす・さやいんげん	めかじき・鯛・鱈・ 枝豆・とうもろこし		秋刀魚・オクラ・ なす・きゅうり・ トマト・ピーマン・ 梨・ぶどう	ししゃも・鮭・ きのこ・さといも・ ブロッコリー・ ねぎ・ごぼう・栗	鮭・鱈・さつまいも・ 水菜・きのこ・ 白菜・だいこん・ 柿	さといも・かぶ にんじん・だい こん・ごぼう・ みかん・りんご	鮭・わかさぎ・れ んこん・白菜・春 かぶ・こまつな キウイ・伊予柑	鱈・菜花・ブロッコ リー・ねぎ・かぶ・こ まつな・ほうれんそ う・はっさく	
	地場産物 食文化の 伝承 食まつわ る行事								こまつな キヤベツ だいこん(はま菜ちゃん)					
	学級活動 学校行事		よくかんで食べよう<①>											
	児童会活動		発育測定	運動会 家庭訪問		個人面談		発育測定	遠足		教育相談	発育測定 給食週間	なわとび月間	
		交流ランチをしよう					交流ランチをしよう			給食集会を楽しもう				

給食を食った教材として活用し、旬や食文化を学ぶ場とする。

食とかかわりのある単元を既存のカリキュラムからピックアップし、各学校での教育活動に合わせて実施時期や時間数を調整する。その際、教科等の内容と「食教育の目標」との関連を明らかにする。

教科 との 関連	国語									すがたをかえる大豆<⑥>			
	社会												
	理科												
	体育 (保健領域)		チャレンジ! 元気な体づくり <①>								チャレンジ! 元気な体づくり <①・②>		
総合的な学習		夏野菜を育てよう<③> サツマイモを育てよう<④>		夏野菜の収穫を祝おう <④>				冬野菜を育てよう <④>		サツマイモの収穫を祝おう <④>	大豆を使った料理を調べよう<④・⑥>	収穫した野菜を給食に使ってもらおう<④>	

* 数字は、食教育の目標を示す。①食事の重要性 ②心身の健康 ③食品を選択する能力 ④感謝の心 ⑤社会性 ⑥食文化

家庭・地域との連携							農園の見学						
個別相談指導		アレルギー対応調整会議			栄養相談					栄養相談			

●食教育全体計画例（中学校）

生徒の実態 保護者 地域の実態	学校教育目標	文部科学省 「学習指導要領」 教育委員会 運営方針
	〇互いに認め合い、支え合い、学び合い、高め合う場をつくります 〇自分らしさをいきいきと表現できる力を育みます	
	食教育の目標	
	①食事の重要性、食事の喜び、楽しさの理解をする。 ②心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身につける。 ③正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身につける。 ④食物を大事にし、感謝する心、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心を育む。 ⑤世界の食生活のマナーや、食事を通じた人間関係形成能力を身につける。 ⑥世界や各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、お互いを尊重する心をもつ。	

各学年の発達段階に応じた食教育の目標

幼稚園 保育園	小学校	1 学年	2 学年	3 学年	高等学校
		<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で食事が果たす役割や健康と食事との関わりを理解する。 食品に含まれている栄養素や働きが分かり、品質の良否を見分け、適切な選択ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 会食について関心をもち、楽しい食事を通して望ましい人間関係をよりよく構築しようとする。 食品の生産、流通、消費について正しく理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活や将来の課題をみつけ、望ましい食事の仕方や生活習慣を理解し、自らの健康を保持増進できるようにする。 食文化や歴史と自分の食生活との関連を考えることができる。 	

特別活動	朝食の時間 学級活動 学校行事 生徒会活動	< 前 期 >	< 後 期 >	
		<ul style="list-style-type: none"> 楽しい朝食時間の過ごし方を考えよう 衛生に気をつけて食事をしよう 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい食事マナーを身につけよう 感謝して食べよう 	
		<ul style="list-style-type: none"> 自分の体について知ろう 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活と健康について考えよう 	
		健康診断 家庭訪問 教育相談 体育祭 旅行的行事 球技大会 地区懇談会 授業参観・懇談会	文化祭 合唱コンクール 教育相談 学校保健委員会 授業参観・懇談会	
		組織作り 年間活動計画作成 清涼飲料水の糖度、カロリー調査 今年度の活動の反省（保健委員会を中心に）		
教科と の 関 連	社会	1 年	2 年	3 年
		地理的分野 (1)世界と日本の地域構成 イ(イ) (2)地域の規模に応じた調査 ア イ ウ (3)世界と比べて見た日本 ア(ウ) (エ) 歴史的分野 (1) 歴史の流れと地域の歴史 ア (2)古代までの日本 ア (4)近世の日本 エ (5)近現代の日本と世界 イ エ ア ク	公民分野 (1)現代社会と私たちの生活 ア イ (2)国民生活と経済 ア (3)現代の民主政治とこれからの社会 ウ	
	理科	第2分野 (1)植物の生活と種類 ア(ア) イ(ア) (イ) ウ(ア) (3)動物の生活と種類 ア(ア) (ウ) (7)自然と環境 ア(ア) (イ) イ(ア)		
	技術・家庭 〔家庭分野〕	A 生活の自立と衣食住 (1)中学生の栄養と食事 (2)食品の選択と日常食の調理の基礎 (5)食生活の課題と調理の応用 B 家族と家庭生活 (3)家庭と家族関係 (4)家庭生活と消費 (6)家庭生活と地域のかかわり		
保健体育 〔保健分野〕	(1)心身の機能の発達と心の健康 ウ	(2)健康と環境 イ ウ	(4)健康な生活と疾病の予防 イ	
道 徳	1 主として自分自身に関すること (1) 2 主として他の人とのかかわりに関すること (1) (2) 3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること (1) (2) 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること (5)(6) (8) (9) (10)			
総合的な 学習の時間	自然教室を通して、地域の特産物と食文化を学ぶ。	校外学習を通して、地域の食文化について調べる。	修学旅行を通して、京都・奈良の食文化を学ぶ。	
家庭・地域との 連携	学校だより、保健だより、家庭教育学級、学校保健委員会、食に関する講演会、食物アレルギー等の個別相談			
個別相談指導及び 取り組み方	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断、保健調査票の結果、日常生活の様子等から必要に応じて個別相談指導を行う。 日常生徒の様子を十分把握し、配慮が必要な生徒については、医療機関、保護者との連携を図る。 保護者の申し出により、学校長、学級担任、校医、養護教諭で食物アレルギー等の対応を検討する。 			
部活動	・スポーツと食生活について、基礎知識を習得する。			

●食教育全体計画例（中学校）

生徒の実態
保護者

○互いに認め合い、支えあう
○自分らしさをいきいきと表現する

1枚にまとめられるようにする。

各学校の指導目標

重要性、食事の喜び、楽しさの理解をする。
長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理し
識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断でき
事にし、感謝する心、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心を
と生活のマナーや、食事を通じた人間関係形成能力を身につける。
⑥世界や各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、お互いを尊重する心

学年毎に具体的に設定する。
各学校の指導目標に基づき、「食教育の目標」を参考に、学校独自に考案する。

各学校の特徴を具体的に表記する。

各学年の発達段階に応じた食教育の目標

幼稚園 保育園	小学校	1 学年	2 学年	3 学年	高等学校
		<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で食事が果たす役割や健康と食事との関わりを理解する。 食品に含まれている栄養素や働きが分かり、品質の良否を見分け、適切な選択ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 会食について関心をもち、楽しい食事を通して望ましい人間関係をよりよく構築しようとする。 食品の生産、流通、消費について正しく理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活や将来の課題をみつけ、望ましい食事の仕方や生活習慣を理解し、自らの健康を保持増進できるようにする。 食文化や歴史と自分の食生活との関連を考えることができる。 	

特別活動	屋食の時間	＜ 前 期 ＞ ・楽しい昼食時間の過ごし方を考えよう ・衛生に気をつけて食事をしよう	＜ 後 期 ＞ ・正しい食事マナーを身につけよう ・感謝して食べよう
	学級活動	・自分の体について知ろう	・自分の食生活と健康について考えよう
	学校行事	体育祭 旅行的行事 見・懇談会	文化祭 合唱コンクール 教育相談 学校保健委員会 授業参観・懇談会
	生徒会活動	今年度の活動の反省（保健委員会を中心に）	
教科と の 関 連	社会	構成 イ(イ) (2)地域の発展に応じた調査 ア イ ウ (3)世界と比べて見た日本 ア(ウ) (エ) 歴史的分野 (1) 歴史の流れと地域の歴史 ア (2) 古代までの日本 ア (4) 近世の日本 エ (5) 近現代の日本と世界 イ エ ア ク	公民分野 (1) 現代社会と私たちの生活 ア イ (2) 国民生活と経済 ア (3) 現代の民主政治とこれからの社会 ウ
	理科	第2分野 (1) 植物の生活と種類 ア(ア) イ(ア) (イ) ウ(ア) (3) 動物の生活と種類 ア(ア) (ウ) (7) 自然と環境 ア(ア) (イ) イ(ア)	
	技術・家庭 〔家庭分野〕	A 生活の自立と衣食住 (1) 中学生の栄養と食事 (2) 食品の選択と日常食の調理の基礎 (5) 食生活の課題と調理の応用 B 家族と家庭生活 (3) 家庭と家族関係 (4) 家庭生活と消費 (5) 家庭生活と地域のかかわり	
	保健体育 〔保健分野〕	(1) 心身の機能の発達と心の健康 ウ (2) 健康と環境 イ ウ (4) 健康な生活と疾病の予防 イ	
総合的な 学習の時間	自分自身に関すること (1) 2 主として他の人とのかかわりに関すること (1) (2) 自然や崇高なもののかかわりに関すること (1) (2) 集団や社会とのかかわりに関すること (5)(6) (8) (9) (10)		
家庭・地域との 連携	生活習慣病予防や食物アレルギー対応等の観点から記入する。	地域の食文化について	修学旅行を通して、京都・奈良の食文化を学ぶ。
個別相談指導及び 取り組み方	・定期健康診断、保健講習会等から必要に応じて個別相談指導を行う。 ・日常生活の様子を十分把握し、配慮が必要な生徒については、医療機関、保護者との連携を図る。 ・保護者の申し出により、学校長、学級担任、校医、養護教諭で食物アレルギー等の対応を検討する。		
部活動	・スポーツと食生活について、基礎知識を習得する。		

●食教育の年間指導計画（中学校1年生） 例

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
特別活動	昼食の時間	楽しい昼食時間の過ごし方を考えよう 衛生に気をつけて食事をしよう							正しい食事マナーを身につけよう 感謝して食べよう					
	学級活動	自分の体について知ろう							自分の食生活と健康について考えよう					
	学校行事	健康診断 家庭訪問 教育相談	修学旅行 (3年)	体育祭	地区懇談会		教育相談	合唱コンクール		学校保健委員会	教育相談	自然教室 (1年)		
	生徒会活動	組織作り 年間活動計画作成							清涼飲料水の糖度・カロリー調査				今年度の活動の反省	

教科との関連	社会	地理 日本の都道府県を知ろう 〈⑥〉					地理 神奈川県を調べよう 沖縄県を調べよう 〈⑥〉							
	理科	第2分野 植物のくらしとなかま 〈①〉					歴史 日本列島にやってきた人類 〈⑥〉			歴史 歴史の流れと地域の歴史 〈⑥〉				
	技術・家庭 (家庭分野)	中学生の栄養と食事 〈①〉 栄養素の種類と働き 〈②〉 わたしたちの食品の選択と調理 〈②・③・④・⑤〉								調理実習 〈②・③・⑤〉				
	保健体育 (保健分野)	心身の発達と心の健康 〈②〉												
	他教科						国語 ハチドリ不思議 〈①〉							
総合的な学習の時間									自然教室を通して、地域の特産物と食文化を学ぶ。 〈①・④・⑤・⑥〉					

*数字は、食教育の目標を示す。①食事の重要性 ②心身の健康 ③食品を選択する能力 ④感謝の心 ⑤社会性 ⑥食文化

家庭・地域との連携	学校だより・保健だよりの発行 食に関する講演会	学校だより・保健だよりの発行 学校保健委員会
個別相談指導	健康相談（随時）	

●食教育の年間指導計画（中学校1年生） 例

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
特別活動	昼食の時間	楽しい昼食時間の過ごし方を考えよう 衛生に気をつけて食事をしよう							正しい食事マナーを身につけよう 感謝して食べよう					
	学級活動	自分の体について知ろう							自分の食生活と健康について考えよう					
	学校行事	健康診断 家庭訪問 教育相談	修学旅行 (3年)	体育祭	地区懇談会		教育相談	合唱コン クール		学校保健委 員会	教育相談	自然教室 (1年)		
	生徒会活動	組織作り 年間活動計画作成		【各教科、特別活動、総合的な学習等における関連】 学習指導要領や教科書から、関連する内容を抽出する。 各学校での教育活動に合わせて、実施時期や時間数を調整する。 教科等との関連を明らかにする。「食教育の目標」を示す。									今年度の活動の反省	

教科との関連	社会	地理 日 〈⑥〉										神奈川県を調べよう 沖縄県 を調べよう 〈⑥〉	
	理科	第2分野 植物のくらしとなかま 〈①〉											
	技術・家庭 (家庭分野)	中学生の栄養と食事 〈①〉 栄養素の種類と働き 〈②〉 わたしたちの食品の選択と調理 〈②・③・④・⑤〉							調理実習 〈②・③・⑤〉				
	保健体育 (保健分野)		心身の発達と心の健康 〈②〉										
	他教科						国語 ハチドリ不思議 〈①〉						
総合的な学習の時間									自然教室を通して、地域の特産物と 食文化を学ぶ。 〈①・④・⑤・⑥〉				

*数字は、食教育の目標を示す。①食事の重要性 ②心身の健康 ③食品を選択する能力 ④感謝の心 ⑤社会性 ⑥食文化

家庭・地域との連携	学校だより・保健だよりの発行 食に関する講演会	学校だより・保健だよりの発行 学校保健委員会
個別相談指導	健康相談（随時）	

●食教育の全体計画例（高等学校）

生徒の実態	<p align="center">学校教育目標</p> <p>自主自立の精神を培い、調和のとれた人間の育成を図ります</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の充実と主体的に学ぶ態度を育成します ○人権を尊重した、他人への思い遣りと豊かな心を育成します ○健康な身体とたくましく生きる力を育成します 	文部科学省
保護者	<p align="center">食教育の目標</p> <p>①食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。</p> <p>②心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身につける。</p> <p>③正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身につける。</p> <p>④食物を大切にし、感謝する心、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心を育む。</p> <p>⑤世界の食生活のマナーや、食事を通じた人間関係形成能力を身につける。</p> <p>⑥世界や各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、お互いを尊重する心をもつ。</p>	「学習指導要領」
地域の実態		教育委員会 運営方針

発達段階に応じた食教育の目標

幼稚園 保育園	小学校	中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活において適切な健康の活動を実践し、生涯を通じて健康で活力ある生活を送るための基礎を培う。 ・自立した生活者として、健康を維持増進することができる食生活を身につける。 ・食文化の伝承と創造の視点を踏まえて、科学的な根拠に基づいた実践力を身につける。 ・食料の生産・加工・流通の仕組み、食料事情と環境問題について理解する。
------------	-----	-----	---

		前期	・	後期
特別 活動	LHR	健康で安全な生活態度や習慣の確立を学習する中で、日常の健康増進を図るための食に関する役割や生活習慣を学習する。成長期における食生活、食事時間を通してのコミュニケーション作り。		
	全校一斉 指導等	心身の健全な発達や健康の保持増進等を学習する中で、健康診断・新体力テストや健康に関する講演会、文化祭などにおける保健・環境に関する活動。年度当初・年度末、夏期・冬期休業の生活指導。		
	学校行事	健康診断、新体力テスト、体育祭、文化祭、学校保健委員会、旅行的行事、農業体験、健康講話、保護者会、PTA総会、PTA研修会、PTA学食試食会、部活動保護者会（栄養指導）		
	生徒会活動	組織作り、年間活動計画、保健だより作成、年間活動の反省、部活動集会（栄養指導）		
教 科 と 連 関	地歴・公民	<p>「世界史A」(1)オ ユーラシアの交流圏 (2)ア 大航海時代の世界</p> <p>「世界史B」(1)世界史への扉 イ日常生活に見る世界史</p> <p>「日本史A」(1)歴史と生活 ア衣食住の変化</p> <p>「日本史B」(1)歴史の考察 イ歴史の追究 (ア)日本人の生活と信仰</p> <p>「地理A」(2)イ (ア) 諸地域から見た地球的課題</p> <p>「地理B」(3)現代世界の諸課題の地理的考察 カ人口、食料問題の地域性</p>		
	理科	<p>「理科総合B」(3)物質と人間生活 イ物質の利用 (イ)生物のつくる物質</p> <p>「生物I」(1)生命の連続性 (2)環境と生物の反応 ア環境と動物の反応</p> <p>「化学I」(2)物質の種類と性質 イ有機化合物</p>		
の 連 関	家庭	<p>「家庭基礎」(2)家族の生活と健康 (3)消費生活と健康 (4)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p> <p>「家庭総合」(4)生活の科学と文化 (5)消費生活と資源・環境 (6)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p> <p>「生活技術」(2)消費生活と環境 (4)食生活の設計と調理 (7)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>		
	保健体育	<p>「保健」(1)現代社会と健康 ア健康の保持増進と疾病の予防</p> <p>(2)生涯を通じる健康 ア生活の各段階における健康</p> <p>(3)社会生活と健康 イ環境と食品の保健</p>		
総合的な 学習の時間		<ul style="list-style-type: none"> ・健康、保健衛生、福祉、保育、環境、国際理解等における食に関連する学習。 ・自己の健康課題を見つけて調査研究。 ・修学旅行に関連して、旅行地の食文化について調査研究。 		
個別相談指導 の方針及び取 り組み方		<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断、保健調査票の結果等から必要に応じて個別相談指導を行う。 ・日常生徒の様子を十分把握し、配慮が必要な生徒については医療機関、保護者との連携を図る。 		

●食教育の全体計画例

生徒の実態	自主自立の精神を培い ○基礎学力の充実と主 ○人権を尊重した、他人への思い 深く生きる力を育成します	1枚にまとめられるようにする。	「学習指導要領」
保護者	各学校の特徴を具体的に表記する。		教育委員会 運営方針
地域の実態	食教育の目標 楽しさを理解する。 ②心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身につける。 ③正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身につける。 ④食物を大切にし、感謝する心、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心を育む。 ⑤世界の食生活のマナーや、食事を通じた人間関係形成能力を身につける。 ⑥世界や各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、お互いを尊重する心をもつ。		各学年の目標を設定してもよい。

発達段階に応じた食教育の目標

幼稚園 保育園	小学校	中学校	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において適切な健康の活動を実践し、生涯を通じて健康で活力ある生活を送るための基礎を培う。 自立した生活者として、健康を維持増進することができる食生活を身につける。 食文化の伝承と創造の視点を踏まえて、科学的な根拠に基づいた実践力を身につける。 加工・流通の仕組み、食料事情と環境問題について理解する。
------------	-----	-----	--

特別活動	全校一斉指導等	各 学校の実態に合わせて内容を記入する。 前期 ・ 後期 習慣の確立を学習する中で、日常の健康増進を図るための食に関する役割や生活習慣を学習する。成長期における食生活、食事時間を通してのコミュニケーション作り。
	学校行事	健康診断、新体力テスト、体育祭、文化祭、学校保健委員会、旅行的行事、農業体験、健康講話、保護者会、PTA総会、PTA研修会、PTA学食試食会、部活動保護者会（栄養指導）
	生徒会活動	組織作り、年間活動計画、保健だより作成、年間活動の反省、部活動集会（栄養指導）
	地歴	

教科	生活	生活に見る世界史
	理科	「地理A」 (2)イ (ア) 諸地域から見た地球的課題 「地理B」 (3)現代世界の諸課題の地理的考察 カ人口、食料問題の地域性 「理科総合B」 (3)物質と人間生活 イ物質の利用 (i)生物のつくる物質 「生物I」 (1)生命の連続性 (2)環境と生物の反応 ア環境と動物の反応 「化学I」 (2)物質の種類と性質 イ有機化合物
	家庭	「家庭基礎」 (2)家族の生活と健康 (3)消費生活と健康 (4)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 「家庭総合」 (4)生活の科学と文化 (5)消費生活と資源・環境 (6)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 「生活技術」 (2)消費生活と環境 (4)食生活の設計と調理 (7)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

総合学習の	健康、保健衛生、福祉、保育、環境、国際理解等における食に関連する学習 ・自己の健康課題 ・修学旅行に関連	生活習慣病予防やアレルギー対応等の観点から記入する。 査研究。 じて個別相談指導を行う。 徒については医療機関、保護者との連携
個別相談指導の方針及び取り組み方	・定期健康診断、 を図る。	

●食教育の年間指導計画（高等学校1学年） 例

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
特別活動	LHR (ロングホームルーム)	食の役割・習慣を学ぶ 食事時間を通してコミュニケーションを図る						食の役割・習慣を学ぶ 食事時間を通してコミュニケーションを図る						
	全校一斉指導							健康講話						
	学校行事	健康診断 新体力テスト	体育祭 食試食会		保護者会			旅行的行事	文化祭	保護者会				
	生徒会活動	組織作り 年間活動計画策定	部活動集会		保健だより作成					保健だより作成			年間反省	

教科との関連	地歴公民	遊牧民と世界の農耕の比較 <⑥>					新大陸原産の農作物 <⑥>						
	理科		人間生活と物質の関わり <①>										
	家庭			家族の生活と健康 <①・②・③・④>	一日の献立作り・原材料調査 <①・③・④>		一日の献立作り・原材料調査 <①・③・④>	消費生活と健康 <③>				エコ対策 <⑤>	エコ対策 <⑤>
	保健体育	毎日の生活と健康 <①・②>											
総合的な学習の時間	健康・保健衛生・福祉・保育・環境・国際理解等における食に関連する学習						健康・保健衛生・福祉・保育・環境・国際理解等における食に関連する学習 <①・②・③・④・⑤・⑥>						

*数字は、食教育の目標を示す。 ①食事の重要性 ②心身の健康 ③食品を選択する能力 ④感謝の心 ⑤社会性 ⑥食文化

個別相談指導	健康相談			健康相談	健康相談			健康相談				
--------	------	--	--	------	------	--	--	------	--	--	--	--

●食教育の年間指導計画（高等学校1学年） 例

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別活動	L H R (ロングホームルーム)	食の役割・習慣を学ぶ 食事時間を通してコミュニケーションを図る					食の役割・習慣を学ぶ 食事時間を通してコミュニケーションを図る						
	全校一斉指導							健康講話					
	学校行事	健康診断 新体力テスト	体育祭 食試食 学生会			保護者会		旅行的行事	文化祭	保護者会			
	生徒会活動	組織作り 年間活動計画策定	部活動集会			保健だより作成				保健だより作成			年間反省

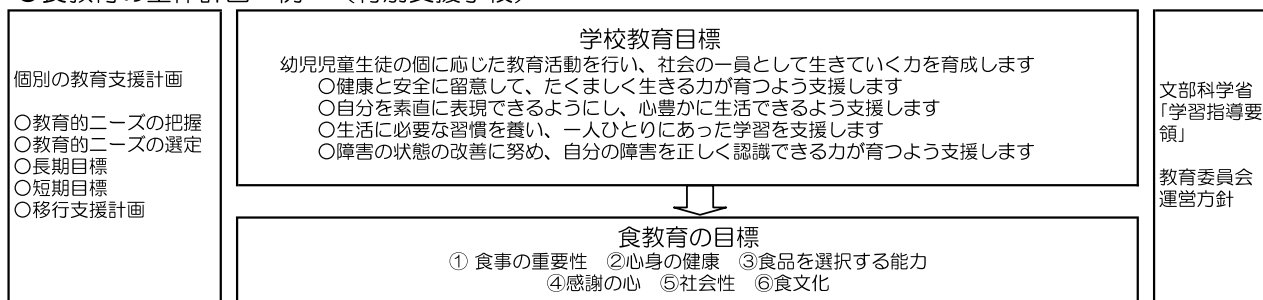
教科と の 関 連	地歴公民	遊牧民と 農耕世界の 比較 <⑥>					新大陸原 産の農作 物 <⑥>						
	理科												
	家庭							消費生活 と健康 <③>				エコ対策 <⑤>	エコ対策 <⑤>
	保健体育	毎日の生 活と健康 <①・②>											
総合的な学習 の時間	健康・保健 国際理解等	福祉・保育・環境・ ける食に関連する学習				健康・保健衛生・福祉・保育・環境・国際理解等における食に関連する学習<①・②・③・④・⑤・⑥>							

食にかかわりのある内容を学習指導要領や教科書からピックアップし、各学校での教育活動に合わせて実施時期や時間数を調整する。その際、教科等の内容と「食教育の目標」との関連を明らかにする。

*数字は、食教育の目標を示す。 ①食事の重要性 ②心身の健康 ③食品を選択する能力 ④感謝の心 ⑤社会性 ⑥食文化

個別相談指導	健康相談			健康相談		健康相談			健康相談			
--------	------	--	--	------	--	------	--	--	------	--	--	--

●食教育の全体計画 例 (特別支援学校)



各学部の発達段階に応じた食教育の目標			
幼稚部	小学部	中学部	高等部
○いろいろな食品に親しむ。 ○落ち着いて食事をすることができる。 幼稚園 保育園 地域療育センター等	○たくさんの食品に触れる経験を通して、食べることに興味・関心をもつ。 ○食事のきまりを理解し、他との関わりの中で、自分のことは自分でできる力を培う。 ○食べる機能を高め、基本的食習慣を確立する。	○日常の食事と健康は深いつながりがあることを知り、好き嫌いせずにバランスのよい食事をとることの大切さを理解する。 ○食事のマナーやきまりを理解し、思いやりの気持ちをもって、その場に応じた行動ができる。 ○望ましい食習慣を知り、進んで実行しようとする意欲をもつ。	○卒業後の生活を健康的に過ごせるように、望ましい食習慣を身につけ、様々な食品の中から有用なものを選択できる。 ○衛生的で合理的な作業ができ、仲間と協力して食事の環境を整えようとする意欲をもつ。 ○食べ物の流通に関心を持ち、食に関わる様々な人達に感謝する気持ちをもつ。

労働等関係先機関

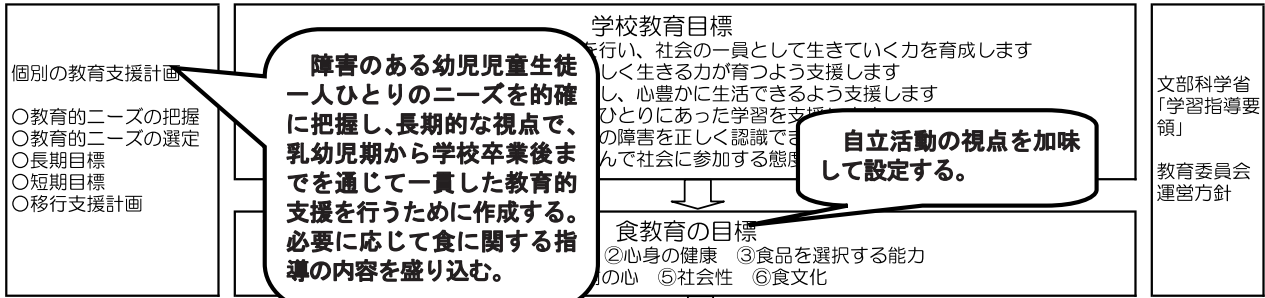
◎教育課程の中の給食の位置づけ

発達段階	I 段階 (多くの場面で介助が必要なレベル)	II 段階 (補助や指示が必要なレベル)	III 段階 (場や状況に応じて、自分で行動できるレベル)	
領域・教科を合わせた指導	・給食のきまりを覚える。 ・スプーンで食べる。 ・見て・聞いて・触って・嗅いで・味わって。 ・食べ物の名前を知る。 ・いろいろな食べ物を食べる。 ・よく噛んで食べる。 ・仲良く食べる。	・今日の献立の名前を知る。 ・はしを使って食べる。 ・好き嫌いを残さず食べる。 ・食べ物を仲間分けする。 ・食べ物の動きを知る。 ・食事を楽しむ。	・栄養のバランスを考えて食べる。 ・衛生に気をつけて準備や後片付けをする。 ・正しいマナーを身につける。 ・美しい食卓作りをする。 ・感謝して食べる。 ・人とのふれあいを大切にしながら食事を楽しむ。 ・バランスを考えて食品を選ぶ。	
自立活動	○健康の保持 ・元気に過ごすために身体に必要な栄養をとる。 ○心理的な安定 ・自分に合った食形態で無理なく食事をとる。	○環境の把握 ・いろいろな味や食感を経験し、味覚や嗅覚などの発達を促す。 ○身体の動き ・安全に食事ができるように、捕食・嚥下・咀嚼をする。	○コミュニケーション ・周りの人と楽しく食事をする。	
特別活動	日本型の食事の良さを知る。 ○主食・主菜・副菜・汁物がそろった献立 ○季節感あふれる献立 ○行事食・郷土食を知る献立 ○地産地消を使った献立 ○栄養素を考慮した献立			
	給食時間 食に関する指導 給食指導	・おいしく食べる。 ・みんなと楽しく食べる。	・いろいろな食べ物を食べる。 ・正しい食べ方を知る。	・食べ物の動きについて考える。 ・正しいマナーを身につける。
	献立作成の配慮	旬の食材・地産地消物の使用 行事食・郷土食・国際理解に関連した献立 食育の日・食育月間・地産地消月間・給食週間に関連した献立 リクエスト・バイキング給食の計画		
	学級活動	楽しい給食 給食調理への参加(そらまめ鞘むき・とうもろこし皮むき等)	給食ありがとう	
学校行事	始業式 発育測定 遠足 修学旅行 校外学習 休日参観 運動会 終業式 文化祭 卒業式 修了式			
クラブ	料理クラブ			

総合的な学習の時間	○自分に合った課題を見つけ、意欲を持って主体的に活動することにより、生き方を考える。 ○社会生活に必要な生き方を身につける。 ・交流教育(他の学校の人と一緒に会食する等) ・地域学習(商店街での買い物等) ・自然体験(畑の農作物の見学等) ・社会体験(レストランでの食事等)
	*知的障害特別支援学校は中学部以上で実施する。 *重複障害のある幼児児童生徒の場合は、重複障害者等に関する特例を適用するなどして適切に実施する(自立活動に入れることもある)。

家庭・地域との連携	学校だより・給食だより・保健だより・給食試食会・親子給食・ヘルシーサポート教室・学校保健委員会等
個別相談・指導の方針	○食に関わる個別相談の場を設定する。 ○保護者の申し出により、食物アレルギー除去の対応を実施する。 ○担任・養護教諭・学校栄養職員が連絡を取り合い、配慮が必要な幼児児童生徒には、医療機関・保護者等との連携を図る。
地産地消活用へのねらい	・安全・安心なおいしい野菜をつくらせている生産者の工夫や苦勞を知り、大切に食べようとする。

●食教育の全体計画 例 (特別支援学校)



各学部の発達段階に応じた食教育の目標		
幼稚部	小学部	中学部
<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな食品に親しむ。 ○落ち着いた食事をすることができる。 <p>幼稚園 保育園 地域療育センター等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○たくさんの食品に触れる経験を通して、食べることに興味・関心をもつ。 ○食事のきまりを理解し、他との関わりの中で、自分のことは自分でできる力を培う。 ○食べる機能を高め、基本的な食生活を送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の食事と健康は深いつながりがあることを知り、好き嫌いせずにバランスのよい食事をとることの大切さを理解する。 ○食事のマナーやきまりを理解し、思いやりの気持ちをもって、その場に応じた行動ができる。 ○望ましい食習慣を知り、進んで実行し、健康増進を図る。

実際の指導にあたっては、一人ひとりの教育的ニーズに基づいて、個別に目標を設定する。

労働等関係先機関

◎教育課程の中の

発達段階	II 段階 (必要なレベル)	III 段階 (場や状況に応じて、自分で行動できるレベル)
領域・教科を合わせた指導	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物の名前を知る。 ・食べ物を仲間分けする。 ・食べ物の動きを知る。 ・食事を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養のバランスを考えて食べる。 ・衛生に気をつけて準備や後片付けをする。
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ○健康 ○心理 ○自分 ○事を 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人と楽しく食事をする。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○食に関する指導 ○食指導 ○献立作成 ○配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな食べ物を食べる。 ・よく噛んで食べる。 ・仲良く食べる。

日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習等で、効果的に食に関する指導を行うことができる。たとえば、給食の時間に給食着の着脱や食べ方の指導を位置づけ、日常生活の指導として行うことができる。

学校給食を通して、食べ物を噛む、飲み込むなどの食べる機能を高めたり、食事姿勢や食具(はし・スプーン・フォーク等)の使い方などの指導を行ったりすることを「自立活動」として位置づけることができる。

学校給食の時間を活用したこれらの指導を教育課程に位置づけて行う場合には、「領域・教科を合わせた指導」または「自立活動」の時間における指導ととらえて、授業時数に含めることができる。

給食を生きた教材として活用する。具体的な内容は、学年別計画や献立年間計画(3.学校給食と昼食の充実参照)に入れるなどの工夫をする。

総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ○自分に合った課題を見つけ、意欲を持って主体的に活動することにより、生き方を考える。 ○社会生活に必要な生き方を身につける。 ・交流教育(他の学校の人と一緒に会食する等) ・地域学習(商店街での買い物等) ・自然体験(畑の農作物の見学等) ・社会体験(レストランでの食事等) <p>*知的障害特別支援学校は中学部以上で実施する。 *重複障害のある幼児児童生徒の場合は、重複障害者等に関する特例を適用するなどして適切に実施する(自立活動に入れることもある)。</p>
-----------	---

家庭・地域との連携	学校だより・給食だより・保健だより・給食試食会・親子給食・ヘルシーサポート教室・学校保健委員会等
個別相談・指導の方針	○食に関わる個別相談の場を設定する。 ○保護者の申し出により、食物アレルギー除去の対応を実施する。 ○担任・養護教諭・学校栄養職員が連絡を取り合い、配慮が必要な幼児児童生徒には、医療機関・保護者等との連携を図る。
地場産物活用のねらい	・安全・安心なおいしい野菜をつくらせている生産者の工夫や苦労を知り、大切に食べようとする。



白根食教育全体計画

白根小学校教育理念

自分を創り、白根を愛する子どもの育成

白根の風土

人
もの
こと

- 食教育の目標
- ①食の重要性
 - ②心身の健康
 - ③食品を選ぶ力
 - ④感謝の心
 - ⑤社会性
 - ⑥食文化

食を通して育てたい3つの力

自分に気づく力

- 食に関心を持ち、学ぶ楽しさに気づく力
- 自分自身は、様々な人やものとかかわっていることに気づく力
- 食と自分のかかわりから、健康のよさに気づく力

かかわる力

- 人とかかわり、そのよさを感じる力
- 自然の素晴らしさを感じる力

追究する力

- 自分の問題としてとらえ、解決していくとする力
- 体験的活動に進んで取り組む力
- これからのよりよい食生活を考えていく力

食の学びを生み出す3つの力の発達段階と食の学びのキーワード

赤字の単元は担任・栄養教諭との協業
青字の単元は担任・養護教諭との協業
緑字の単元は担任・栄養教諭・養護教諭との協業
①～⑥は食教育の目標

食を通して3つの力を育む学びの場

教科	1年		2年		3年		4年		5年		6年		個別支援学級			
	生活総合	国語	社会	算数	理科	家庭	体育	道徳	生活総合	国語	社会	算数		理科	家庭	体育
生活総合	感覚を用いて食材を体験することを通じた学び	野菜を育てることを通じて食材への愛着を育む学び さつまいもの栄養	野菜を育てる・調理する・いただくというサイクルを実感することを通じた学び	地域の事象から日本の食料について追っていかうとする学び	身近な事象と食を常に関連させて考えていかうとする学び	育てる・調理する・いただくという体験										
国語		かんざつ名人になろう	すがたをかえる大豆 ちいちゃんのかげおくり	「かむ」ことの力 一つの花	カレーライス 生き物はつながりの中に											
社会			まちたんけん わたしたちのまちの昔と今	水はどこから ゴミはどこへ 私たちの神奈川	食料生産を支える人々											
算数	かぎのなまえ	3けたのかぎ	ぼうグラフと表かけ算	折れ線グラフ 分数	百分率とグラフ											
理科			植物を育てよう	季節と生き物	生命のつながりI II											
家庭					どんな食べ方がいいのかな 作っておいしく食べよう	朝食を作ろう 一食分の食事										
体育			毎日の生活と健康	育ちゆく体と私		病気の予防										
道徳	1-(1) 2-(1X4) 3-(1X2) 4-(2X4)		1-(1) 2-(1X4) 3-(1X2) 4-(2X3X5X6)		1-(1X2) 2-(1X5) 3-(1X2) 4-(2X4)											
学級活動	低学年	楽しい給食(1年) 給食調理への参加(1年) 歯をきれいにみがこう	元気のもとを知ろう(1年) 赤の食べ物(2年) 給食調理への参加(2年)	いろいろな食べ物を食べよう(2年)	給食ありがとう(1年) 栄養三色の食べ物の働き(1年)											
	中学年	じょうぶな歯にするために	よくかんで食べよう(3年) 選んで食べよう(4年)	体からのお便り(3年) 自分の体にきいてみよう(4年)												
高学年	口の中の病気を予防しよう		心で感じて食べよう(5年)	成長期の食事・卒業バイキングをしよう(6年)												
学校行事	発育測定 食育週間		発育測定 個人面談		個人面談 豊川帯泊体験学習		発育測定 給食週間									
児童会活動	なかよし給食						お別れ給食									
特別活動	給食指導	低学年	給食の準備⑤	じょうずな食べ方②	地産産物の野菜⑥ 正しい手洗い②	よい運び方配り方⑤	はしの使い方⑤	いろいろな食べ物③	食べ物の好き嫌い②	力を合わせてきちんと片付け⑤	きゅうしょくありがとう④⑥	食卓づくり①⑤	楽しい食事①⑤			
		中学年	食事のマナー⑤	よい姿勢②	日本食の良さ⑥ よくかむこと②	安全・衛生的な運搬配膳の工夫③	食事のしかた⑤	食べ物の働き②③	給食の基準量②	協力した後片づけ⑤	給食に感謝④⑥	食事環境の整備①⑤	楽しい会食①⑤			
		高学年	感じのよい食べ方⑤	正しい姿勢②	日本食の食生活⑥ かむことと健康②	安全・衛生的な運搬配膳の工夫③	食事のマナー⑤	栄養のバランス②③	食事の適量②	後片づけの協力と工夫⑤	給食に感謝④⑥	食事環境の工夫①⑤	楽しい会食①⑤			
	給食を題材にした食教育計画(食に関する指導)	創立テーマ	入学・進学・春の食べ物	端午の節句	横浜ゆかりの料理・食育月間	七夕	十五夜・重陽の節句	秋の旬の食べ物	七五三・収穫祭	冬至	正月料理・給食週間	部分	ひな祭り・卒業			
アピール創立	毎ご飯・あさりのチャウダー	グリーンピースご飯・五目ご飯	ゆで空豆・じゃことアーモンドの佃煮	そうめん汁・ゆでとうもろこし	月見料理・菜の花の酢の物	栗ご飯・はま菜ちゃん献立	七五三祝い膳・さつまいもご飯	かぼちゃのそぼろあんかけ	白玉雑煮・ぜんざい・鯛のごまみそあえ	ポルシチ・呉汁・国際理解料理	ひな祭り寿司・卒業祝い膳					
白根の旬(地産産物)	福・キャベツ	グリーンピース・キャベツ	空豆・枝豆・キャベツ・葱	トマト・茄子・枝豆・トウモロコシ	じゃがいも・茄子・浜梨	じゃがいも・さつまいも・里芋・ごぼう	さつまいも・葱・ゴボウ・柿・大根・じゃがいも	大根・里芋・ブロッコリー・葱・白菜・人参・小松菜	かぶ・ほうれん草・大根・小松菜・葱・人参・白菜	人参・かぶ・大根・小松菜・ブロッコリー・葱	小松菜・ブロッコリー・葱					
担任の指導	給食の食べ方	春の食べ物	かむことの大切さ	夏の食べ物	ご飯、パンの食べ方	秋の食べ物	好き嫌い	冬の食べ物	食に感謝する心	暮らさなければいけない食事	バランスのとれた食事					
栄養教諭の指導	三色の栄養・給食について(マナー・衛生・基準量・配膳の仕方・後片づけの仕方・挨拶・楽しい会食)については、日々の給食時間の中で指導していく。	食べ物と体の関係	食べ物の働き	カルシウムの働き	水分のとり方・夏の食事とおやつ	黄の食べ物の働き	赤の食べ物の働き	緑の食べ物の働き	三色取りそろえて食べよう	日本の伝統食	自分にあった食事・牛乳の栄養	食べ物の組み合わせ				
家庭・地域との協業	○学校説明会・白根小食教育の説明	○給食試食会(新1年生保護者)・学校給食について	○食育月間「まごはやさしい」○学校保健委員会・早起早起き朝ご飯	○家庭教育学級・夏の食生活	○親子朝ご飯教室	○保育園食育訪問・食べ物とながよし	○中学校学校保健委員会・中学生の食事について	○給食試食会	○食育講演会・体と心を育てる食事	○中学校お弁当講習会・栄養バランスをバッチリ弁当作り	○学校保健委員会・早起早起き朝ご飯	・来年度に向けて地産産物野菜生産者との話し合い				
個別相談・指導の方針	○食にかかわる個別相談の場を設定する。 ○保護者の申し出により、食物アレルギー除去の対応を実施する。 ○担任・養護教諭・栄養教諭が連絡を取り合い、配慮が必要な児童には、医療機関・保護者との連携を図る。															
地域への発信	学校だより・給食だより・保健だより															
地産産物活用のねらい	・安全・安心なおいしい野菜を作っている生産者の工夫や苦労を知り、大切に食べようとする。 ・地域で育てられた野菜を学校給食に取り入れることにより、白根の風土に関心をもち、															

白根食教育全体計画

白根小学校教育理念

自分を創り、白根を愛する子どもの育成

白根の風土

人
もの

生活科・総合的な学習の時間を切り口に食に関する学習を開発しながら「食教育全体計画」を作成したため、表の一番上は生活科・総合的な学習の時間が来る。

食を通して育てたい3つの力

かかわる

人とかかわり、そのよさ自然の素晴らしさを体験

追究する力

○自分の問題としてとらえ、解決していく

各学校の教育方針に基づき、横浜市からでている6つの「食教育の目標」を網羅するような、食教育で育てたい力を学校ごとに考案する。

- 食教育の目標
- ①食の重要性
 - ②心身の健康
 - ③食品を選ぶ力
 - ④感謝の心
 - ⑤社会性
 - ⑥食文化

栄養教諭との協業
保健教諭との協業
栄養教諭・保健教諭との協業

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	個別支援学級
教科	生活総合	感覚を用いて食材を体験す	野菜を育てることを通して	野菜を育てる・調理する・いただくというサイクルを実	地域の事象から日本の食料	身近な事象と食を常に関連さ	育てる・調理する・い	育てる・調理する・い
	国語						カレーライス	○夏野菜を育てよう
	社会						生き物はつながりの中に	・じゃがいもでカ
	算数	かずのなまえ	3けたのかず	ぼうグラフと表かけ算	折れ線グラフ	百分率とグラフ	比	・しゃがいでカ
	理科			植物を育てよう	季節と生き物	生命のつながりⅡ	生物と環境	・しゃがいでカ
	家庭						人や動物の体	・しゃがいでカ
	体育						朝食を作るう	・しゃがいでカ
道徳						病気の予防	・しゃがいでカ	
		食にかかわる内容を教材にした生活科・総合的な学習の時間の年間計画を立案していくことも可能である。						
		食とかかわりのある単元を既存のカリキュラムからピックアップするとよい。						
特別活動	学級活動	低学年	給食調理への参加(1年)	赤の食べ物(2年)			給食ありがとう(1年)	主に生活単元学習で
	中学校	給食調理への参加(2年)	よくかんで食べよう(3年)				栄養三色の食べ物の働き(1年)	
	高学年	よくかんで食べよう(3年)	選んで食べよう(4年)					
	学校行事							
	児童会活動							
	給食指導	低学年	給食のしごと	給食のしごと				
	中学校	給食のしごと	給食のしごと					
	高学年	給食のしごと	給食のしごと					
	給食テーマ	給食のしごと	給食のしごと					
	給食時間	給食のしごと	給食のしごと					
		特別活動は、給食時間に行うものと学級活動の中で行うものとを分類しておく、指導が円滑に進む。						
		日々の給食を生きた教材としてとらえ、指導計画を立てる。						
		生活習慣病や食物アレルギー対応の観点から記入する。各学校の児童の実態にあった内容を記入する。						
		各学校の実態にあわせて内容を記入する。						
家庭・地域との協業	○学校説明会・白根小食育委員会の説明	○給食試食会(新1年生保護者)・学校説明会	○食育月間「まごはやさしい」○学校保健委員会	○家庭教育学級・夏の食生活	○親子朝ご飯教室	○保健活動	○学校保健委員会・栄養士	・来年度にむけて地場産野菜生産者との話し合い
個別相談・指導の方針	○食にか	○担任						
地域への発信	学校だより							
地場産物活用のねらい	・安全・安心なおいしい野菜を作っている生産者の工夫や苦勞を知り、大切に食べようとする。 ・地域で育てられた野菜を学校給食に取り入れることにより、白根の風土に関心をもち、							